

教育委員会行政視察について

1 視察日程

令6年（2024年）11月6日（水）～8日（金）

2 視察先と主なテーマ

- （１）岐阜市教育委員会
- （２）岐阜市立草潤中学校（学びの多様化学校）
- （３）本巣市立根尾学園（義務教育学校）
- （４）ぎふ地域協働活動センター（地域学校協働活動）
- （５）岐阜市立岐阜小学校（岐阜市型コミュニティスクール）
- （６）みんなの森「ぎふメディアコスモス」（知と絆と文化の拠点）



3 視察者

教育長 遠藤 洋路
 教育委員 西山 忠男、 澤 栄美、 村田 慎
 （随員：総合支援課長 吉里 麻紀）

4 視察内容

（１）岐阜市教育委員

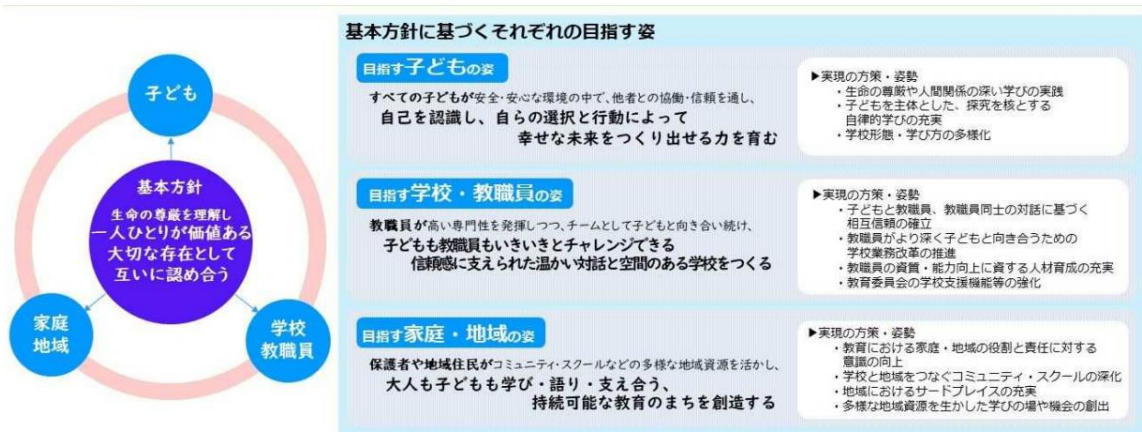
<日時> 11月6日（水）14：00～14：30

<概要>

岐阜市の水川和彦教育長他教育委員会職員の方と面談。
 岐阜市の教育について説明を受ける。

岐阜市教育大綱基本方針

学校・家庭・地域の誰かが生命の尊厳を理解し、互いに心を開く対話を重ね、一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う教育を推進する。



(2) 岐阜市立草潤中学校

<日時> 11月6日(水) 15:00~16:30

<概要> 令和3年(2021年)開校の、公立の学びの多様化学校。「学校らしくない学校」視察中何度も出てきた言葉。学校に生徒が合わせるのではなく、生徒に学校が合わせる。この短い言葉に草潤中学校の先生方の思いが凝縮されていた。

<特記事項>

- ・当たり前がない

⇒安全にかかわること以外は規制や指定がない。校則、制服、給食無し。担任の先生は自分で決める(個人担任制)。年度途中の変更も可。

- ・どこでも学べる

⇒すべての授業をオンラインでライブ配信。自宅、教室以外の別室で視聴ができる。

- ・教育課程が緩やか

⇒年間授業時数770時間(一般校1015時間)

- ・どのように学ぶか自分で決める

⇒セルフデザイン(年間70時間)。自分の好きなテーマを深く学ぶ。

地域とともに行う行事(餅つき、金華山登山)以外は生徒が企画・立案・実行する

- ・評価を選べる

⇒①観点別絶対評価、②文書のみ評価、③教科により①②の組み合わせ。期末テストは希望制。

- ・生徒定員40人程度(令和6年度46人)

⇒希望者が多く、選考を行う。不登校を経験したけれども、リスタートしたいと考えているこどもにあっている。教職員計27名配置(スクールカウンセラー等含む)



登校時に心身の状況を
チェック(ここタン)



マネジメントオフィス
と呼んでいる校長室



予算の1/3をかけた
ホテル級トイレ



図書室も癒しの空間



イマここボ
ードで自分
の居場所を
表示

(3) 本巢市立根尾学園（義務教育学校）

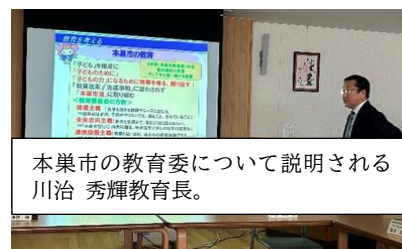
<日時> 11月7日（木）9：20～12：00

<概要> 根尾学園の設立目的と本巢市の教育アプローチについて説明があった。本巢市は子どもを中心にした教育を推進。根尾学園は幸せに生きる主体者を育てることを目指しておられる。数学のまちづくりやウォーキングラーニングの街としての健康教育、子ども権利条例の意義などが取り上げられ、心と体の健康を基盤とした教育の重要性が強調された。

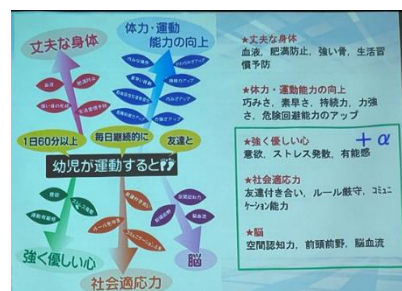
<特記事項>

●本巢市の教育

- ・本巢市は、こどもを軸足にした教育を推進し、こどもの力になることを重視。現場主義、未来志向主義、連携協働主義が3つの柱。
- ・こどもを幸せに生きる「主体者」に
- ・各界の第一人者とのコラボ
⇒数学のまちづくり（秋山仁氏）
- ・運動と食事からのアプローチ
⇒幼児期からの運動の重要性
- ・命の教育
- ・英語教育

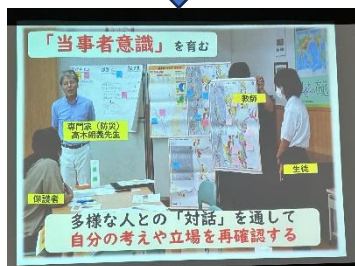


本巢市の教育委について説明される
川治 秀輝教育長。



●本巢市立根尾学園

- ・教育目標
⇒ふるさとを愛し、仲間と共に未来を切り拓きたくましく生き抜く児童生徒
～自立・共生・創造～
- ・児童生徒 45 人 教職員 30 人
- ・ふるさとの自然を学びのフィールドにする
- ・全校縦割り班による活動
- ・当事者意識と主体性を育む



・自分の可能性に気づき、自分を磨き高める「かがやき科」。主体的・対話的な学びを通して、自分の夢を発見し、実現する力を育てる。



オカリナ演奏による歓迎



床に座って、椅子を使って、様々な形で異学年の子どもたちが対話。学校運営に参画。



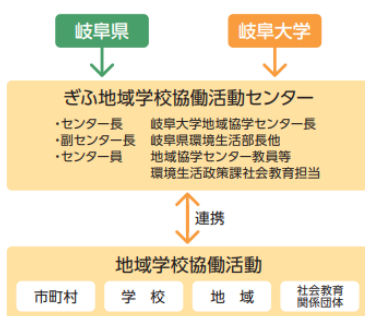
(4) 岐阜大学地域協学センター（地域学校協働活動）

<日時> 11月7日（木）14:30～16:00

<概要> 地域学校協働活動の推進を目指して、岐阜大学地域協学センターと岐阜県環境生活部が共同で設置。地域・学校双方が抱える課題解決に向けて、地域と学校がパートナーとして連携・協働できるための下支えを行っている。



運営体制



<活動内容>

- ・「地域学校協働活動推進員」の育成・研修
- ・地域連携担当教員の研修
- ・社会教育委員、公民館職員等社会教育関係者の研修
- ・学生ボランティアの育成・確保
- ・「地域学校協働活動」に関する調査・研究
- ・セミナーや出前講座の講師派遣
- ・「地域学校協働本部」や「学校運営協議会」の立上げ・運営支援
- ・学校の「ふるさと教育」の指導・助言 等

(5) 岐阜市立岐阜小学校（岐阜市型コミュニティスクール）

<日時> 11月8日（金） 9：30～11：30

<概要>

岐阜市立岐阜小学校は、児童数の減少により、城下町を校区とする金華小学校と、旧県庁舎（新市庁舎）等が立ち並ぶ官公街を校区とする京町小学校の、二つの伝統校が統合して平成20年度に開校した小学校。開校以来、岐阜市最初のコミュニティ・スクールに指定され、「ふるさと大好き」を合い言葉に持続可能な地域づくりへと向かう「地域創造型」の学校へと進化してきた。児童生徒数277人。職員数30人。

<特記事項>

- ・学校は地域の人が入ることを前提に作られている。

1階フロア



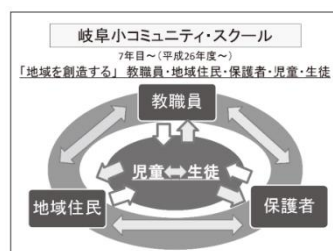
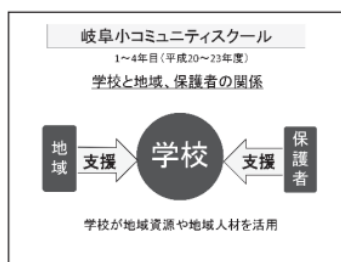
地域の人は、休日も含め校庭から直接出入りも可能



調理実習風景
多数の保護者が参加。どのこも同じように見守る。



地域の方も利用できる図書コーナー
中央は特別支援教育室の子どもたちが作ったオブジェ



・コミュニティスクールができたころは、学校を支援する制度だという意識が強く、うまく進まなかった。

・開校5年目「ふるさと大好き」の合言葉で急速に進んだ。こどもたちを中心に、地域住民が主体的な立場でかわりを始めた。今ある教職員の仕事を地域住民や保護者が分担するのではなく、教職員と協働してこどもたちを育てる「学校を創造する」立場へと変わり始めた。

・開校7年目以降「コミュニティ・スクールづくりはまちづくりである」「今の学校の姿が地域の将来の姿」という考え。大人もこどもも主体的に楽しみながら活動している。みんなが当事者として、不満があれば自分事として、自分で対応をしてもらう方針。

・非認知能力を付ける。大人もこどもも成長する場所。

(6) みんなの森「ぎふメディアコスモス」(知と絆と文化の拠点)

<日時> 11月8日(金) 13:30~14:30

<概要> 図書館や市民共同のセッション、文化の拠点としてのホールや展示ギャラリーを含む。

市民とともに成長する文化複合施設。

<特記事項>

シビックプライドを大切にしている。

⇒地域の歴史や文化を保存することは、地域の誇りを育む。

⇒地域の人々を紹介し、彼らの活動を支援する。

●知の拠点

・ 市立中央図書館

⇒最大所蔵可能数約90万冊、座席数約910席

⇒「滞在型図書館」がキーワード

⇒岐阜市では、本を読んで誰かに伝える。自分の言葉で表現することを読書としている。

●絆の拠点

・ 市民活動交流センター

・ 他文化交流プラザ

●文化の拠点

・ ホール（最大230席）

・ 展示ギャラリー

・ オープンテラス

市民の交流スペース



勉強したい子どもたち。テスト週間は警備員さんを配置



市民が参加できる
催しや・ボランティアの情報



お悩みに図書館職員が
答えるコーナー



奥の壁は開放ができ、オープンテラスとなる。



図書館内は居心地の良い空間が広がる。

